

2017年度 須磨学園中学校 入学試験問題 第1回

社会 出題意図

全体について

例年と同じく、「地理」・「歴史」・「公民」分野から出題しています。①・②は歴史分野、③・④は地理分野を中心とする問題、⑤が公民分野となっています。小問題数は、歴史分野が15問、地理分野が15問、公民分野が8問、合計38問からなります。

歴史分野では、各時代の必要とされる知識や歴史の流れを理解しているかを問う問題を出題しました。地理分野は、西日本を中心とする地誌の知識や、思考力を要する問題を出題しました。公民分野は政治制度から国際・環境問題まで幅広く出題しました。また、問題の難易度も検定教科書にある基本内容から思考力を要する難度の高い問題まで幅広くあります。③・④では、分野にとらわれずに社会的事象を総合的に捉えることを求め、問題文中の情報や、これまでの実体験を含めた「知識」を総動員して解く力も試されました。

各問題について

① 「お金」をテーマに各時代の特色を問う歴史問題。問1は飛鳥時代以前の日本を問う問題。問2は各時代の文化などに関する問題。問3は明治時代に活躍した人物、問4は戦後の日本に関する問題。問5は石見銀山を、問6は都の変遷を答える問題。問7は江戸時代の経済政策に関する問題。このように各時代の特色を出題し、歴史の基礎知識の定着度合いを確認するための問題です。問6などは時代の流れに沿って、やや細かな内容が問われており、そのほかの問題に関しても、歴史の深い理解が問われています。

② 歴史上の出来事を、五七五のカルタ風に表現したものを題材とした問題。出来事をイメージする力と、歴史に対する深い理解を求めています。問1は、北条政子の有名な台詞を題材に承久の乱を問い、問2は厩戸皇子に関連して、飛鳥時代や仏教に関する知識を問うています。問3、問4では、「下の句」や空欄に入る語が問われ、歴史の知識に加え、柔軟な発想力も求められました。問6では、日本の近現代史の知識に加え、オバマ大統領の広島訪問という時事内容も押さえている必要がありました。問8の並べ替えは、各問も手掛かりに、カルタが表す時代が導き出せれば、難度の高い問題ではありません。

- 3 西日本をはじめとする地誌の問題です。問1は中央構造線に関連した、山、川の位置と名称という基本的な知識の問題。問2も、島嶼がどの県に属するかという基本的な知識の問題。歴史の学習の際の土台ともなる事項です。問3、問4、問6では、生活や産業の特色を、自然環境と関連付けて理解できているかを問いました。問7では、さらに、歴史的背景や、地理的な位置をも加えて、日本海側という地域の姿を捉えることを求めています。問5では、棚田というものの特徴と、その耕作放棄が結び付けられるかという想像力も求められます。九州地方を襲った地震や、農産物の地理的表示など、ニュースで取り上げられた事柄への関心や、荒廃した農地の活用といった新しい話題への理解もあると、より確実に正解できます。
- 4 自動車や、工業をテーマとした問題。問1と問4では、貿易や日本企業の海外進出に関する知識を問いました。問2では、統計表を読み解く力と、工業地帯に関する知識を活用する思考力が求められました。問3は、各国の自動車生産台数の推移の背景にあるものまで理解していないと、やや判断の難しい問題でした。問5では、知識を有していることよりも、工場見学などの経験と、文の説明から答えを導き出す力を求めました。問6は、物事を多面的に捉えることができるかを問う問題でしたが、内容的には平易なものにしました。地理、公民といった分野に囚われることなく落ち着いて記述することが求められました。
- 5 オリンピックを題材とした公民分野からの出題。問1は環境に関する議定書や協定の問題。問2は憲法の前文の空所補充問題。いずれも、基本的な知識が身についているかを問うための出題ですが、すべてを正確に答える必要があり、やや難易度は高めでした。問3、問4、問7(2)では、国際分野の知識を問いました。問4のようなグラフ問題では、数値変化の理由についての理解を求めています。問5は地方財政、問6は内閣、問7は省庁名に関する出題で、基本的な知識を問うています。